

## 生“ライブ“で向かい合うということ

暑中お見舞い申し上げます。

今年の梅雨も豪雨をもたらし、これからも猛暑が続く様子。夏に備えての恵みとしての雨や、季節を楽しめる程度の暑さを求めるのは難しくなってきました。

先日、友人に「当日B席」というのを教えてもらい、久しぶりに宝塚大劇場へ行ってきました。2階の最後の列なのですが、当日に限り発売されるもので、3時間の舞台を2,000円という格安で楽しめるのです。遠い席で観るのは初めてでしたが、舞台全体が見渡せて迫力があり、美しく華やかな宝塚歌劇の魅力は、十分に味わえました。

興奮さめやらぬ・・・で、帰って早速、DVDで過去の歌劇を観ました。涼風真世さんや天海祐希さんが出演している、かの有名なベルサイユのばらです。若い！！素晴らしい！「これを今、当時のままナマで観たいなあ～！」タイムマシンがない限り無理ですが、あらためて「生」で接することの魅力、貴重さを実感しました。舞台、コンサート、ライブの魅力は、まさに肌で感じる事。そして、その時その一瞬は、「今」でしかありません。まさに生きることの体感価値。

その数日後、お世話になっている経営者の方の奥さんと本当に可愛い小さなお子さん二人にお目にかかる機会がありました。ごあいさつ程度でしたが、ご家族にお会いしたことで、その会社の社員さんだけでなく、ご家族、社会にとってのその方の存在の大きさを感じ、今まで以上に応援したいという気持ちになりました。

社内コミュニケーションの重要性は、重々承知のことと思いますが、この「会う」「顔を合わせる」ということがひとつのポイントなのだと思います。労務問題におけるトラブルは、ほとんどが、相手に対しての理解不足、説明不足です。「会わなければ、合わなくなる」という言葉もあります。エンタテインメントの生の魅力は、肌、全身で感じるのですが、社内コミュニケーションも例外ではないのだと思います。短い時間でも直接顔を見て話すことが、お互いの理解を深めます。そうして身近に感じるようになった相手だからこそ仲間として助け合い、協力したいと思う。そういうことではないでしょうか。「会う」という意識と仕組みを持ちたいものです。

2017. 7月 水田かほる